

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門美術高等学校

- 1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
- 2 将来、美術・工芸・デザインの第一線で活躍し、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルの育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展に寄与する

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成

(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成に取り組む。

ア 生徒全員がタブレット端末(2、3年生はBYOD)を活用し、ポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。令和2年度、学校経営推進費支援校となり、事業計画名「美術教育最先端“港南造形のICT飛躍的改造”計画“Konan drastic innovation”」により設置した全HR教室のプロジェクタ(経営推進費用250万円)と連動させることで、「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」を、各授業実践を通じて向上させる。「学習動画」やオンライン授業、教育アプリ等を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、すべての教科で学力向上を図る。

イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせる指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。

ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、知識を表現し、活用していく力を身に付けさせる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。

エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のため校内研修、海外研修を充実する。

※学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答(H30 84%、R1 80%、R2 84%)を、令和5年度には90%に近づける。

※「発信力」の育成について、全教室設置のプロジェクタを活用して、卒業時には、すべての領域の生徒がタブレット端末等のICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。すべての授業(教科・科目)でICT活用を促進していく。学校教育自己診断において「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的回答(H30 86%、R1 88%、R2 83%)を、令和5年度には90%にする。

2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成

(1) 将来、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。

ア 高大連携、作家、企業、芸術団体との連携等の一層の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。

イ 1年次から進路ガイダンスを系統的に実施し、将来を見据えた具体的な進路目標の実現に至る道筋を明確にし、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。

ウ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学10名程度を含む4年生大学進学者数100名程度を維持していく。

※進路指導の指標として、学校教育自己診断において「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答(H30 91%、R1 94%、R2 91%)「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答(H30 92%、R1 93%、R2 91%)、いずれも90%以上を維持していく。

※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持していく。令和5年度においても現在の水準(美術の大阪府代表)を維持していく。学校教育自己診断において「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答(H30 87%、R1 87%、R2 89%)を、令和5年度には90%以上にする。

※部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」「ノークラブディ」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割

(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として、全国の美術・工芸教育のセンター校としての役割を果たしていく

ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。

イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、教育活動の拡充を図る。

ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動を展開するため、展示・展覧を進め、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図るとともに、国際理解教育の推進を図り、姉妹校である臺中第一高級中等学校との連携を基本に、外国の学校との交流を推進する。

※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。また、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を推進する。令和5年度においても海外、国内の作品に触れる機会を、海外研修(イタリア・台湾)も含め5回以上実施し、学校教育自己診断において「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答(H30 98%、R1 98%、R2 99%)を、令和5年度には100%にする。また、「国際感覚を養う国際交流の機会がある。」の肯定的回答(H30 78%、R1 70%、R2 57%)を、令和5年度には80%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 発信力 「造形活動を通して、「確かな学力」の育成	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 ア 生徒全員がタブレット端末を活用し、全ての教科で、学力の向上 イ 実技力の向上と、少人数や選択授業による実技力及び学力の向上 ウ 言語活動の充実 エ 美術文化への理解	(1) ア 造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であり、家庭学習の強化も必要。全ての教科でタブレット端末を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高めるとともに、自学自習のために学習アプリ等も活用して、学力の向上を図る。 イ 造形活動に必要な「幅広い実技力」を身に付けさせるため、実技指導の充実を図るとともに、少人数や選択授業により授業への関心を高め、実技力及び学力の向上を図る。 ウ 全ての教科で、発表の機会を増やし言語活動を充実させる。生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を増やす。 エ 国立国際美術館等の協力を得て、現代の作品、世界の作品、伝統工芸に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。	(1) ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答を、85%以上にする。[84%] イ・学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答、90%以上を維持する。[91%] ウ・学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的回答を85%以上にする。[83%] エ・海外、国内の作品に触れる機会を増やす。[6回]	
2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成	(1) 芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェSSIONナルを育成 ア 高大連携等の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進 イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導と教育相談の充実 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施 「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持	(1) ア 高大連携等の充実、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。新型コロナウイルス感染症の影響により停滞している連携を、特に防災面での連携をさらに進め、防災学習に生かしていく。 イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を組織的に行う。進路実現に向けた進路指導体制をさらに強化する。生徒に寄り添う教育相談体制のさらなる充実を図り、担任以外に相談できる機会を増やす。 ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。進路指導の成果を多角的に把握し、生徒が希望する進路実現につなげる。「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。部活動指導や補習による、生徒・教員の過度の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。	(1) ア・高大連携と大阪市住之江区との連携を継続していく。「大和川陶板ロード」も延伸していく。学校教育自己診断における「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答を、80%に近づける。[66%] 「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答を、80%以上にする。[79%] イ・学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答、90%以上を維持する。[91%] ・学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答を80%に近づける。[73%] ウ・学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答を、90%以上にする。[89%] ・「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に達成する。	

<p>3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として果たす役割</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす</p> <p>イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等の推進</p> <p>ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動と外国の学校との交流の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、美術・工芸の教育活動や美術大学との連携にセンター校としての役割を果たしていく。教育活動・発表・展覧会を充実させ、近畿・全国に向けて発信する。</p> <p>「大阪府高等学校美術・工芸教育研究会会長校」として、大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすとともに、「港南展」をはじめとした独自行事、取組のより一層の発展を図る。</p> <p>イ 本校の特色である地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さ、達成感を与えるとともに、生命を大切に作る心、社会のルールを守る態度を養う。</p> <p>ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動を展開するため、展示・展覧、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図るとともに、国際理解教育の一環として、姉妹校である臺中第一高級中等学校との連携を基本に外国の学校との交流を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答、99%を維持していく。[99%]</p> <p>イ・学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答を、90%に近づける。[87%]</p> <p>「地域（住之江区）や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答を、80%に近づける。[66%]</p> <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答を、80%以上にする。[79%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「国際感覚を養う国際交流の機会がある。」の肯定的回答を、70%以上にする。[57%]</p>	
--	---	---	--	--